

# 令和7年度白河市総合教育会議

## 議事録

- 1 日 程 令和8年1月21日（水）
- 2 場 所 市役所4階 全員協議会室
- 3 開 会 午後1時30分
- 4 出席者  
 (1) 構成員

職 名	氏名
市 長	鈴木 和夫
教育委員会	教 育 長 芳賀 祐司
	教育長職務代理者 高橋 顕
	委 員 沼田 鮎美
	委 員 瀧澤 学
	委 員 瀧澤 織絵 (欠席)

(2) 市職員

職 名	氏名
市長公室長	鈴木 健一
市長公室企画政策課長	真船 薫
市長公室企画政策課企画政策係長	星 大介
市長公室企画政策課企画政策係副主査	遠藤 広章
教育委員会事務局教育次長	田崎 修二
教育委員会事務局教育総務課長	尾股 淳一
教育委員会事務局教育総務課課長補佐兼総務係長	鈴木 一寿
教育委員会事務局学校教育課長	上野 康生
教育委員会事務局学校教育課主幹兼課長補佐兼指導係長	鈴木 純子

- 5 議 事  
 (1) スマホとの付き合い方について
- (2) その他
- 6 閉 会 午後2時45分

## 1. 開会

### ○事務局（司会）

令和7年度白河市総合教育会議を開催します。  
なお、会議は公開とし、傍聴を許可します。

## 2. 議事（1）スマホとの付き合い方について

### ○事務局（司会）

白河市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、会議の議長は市長とします。

### ○市長

議事（1）の「スマホとの付き合い方について」、事務局に説明を求めます。

### ○事務局

まず、教育委員会が実施したアンケート調査結果をご説明いたします。

市内の小学生に「ネットやSNSで何をしているか」聞いたところ、動画を見ると答えた生徒が約89%、ゲームをすると答えた生徒が約72%、音楽を聴くと答えた生徒が51%と、様々なことに使用しておりました。

適度に、これらを楽しむことは良いと思いますが、長時間にわたって利用することには問題があると考えております。

文部科学省が令和7年7月に公表した令和6年経年変化分析調査の結果をみると、前回の令和3年より、各教科で平均スコアが大きく低下しました。

調査対象は、全国の小学6年生と中学3年生です。

平均スコアが低下した要因がいくつか考えられている中で、注目されていることが、スマホやゲームの利用時間です。

これらの利用時間は、前回調査より、小学6年生が平均45分、中学3年生が平均42分増加。利用時間別のスコアは、スマホなどを3時間以上利用する層ほど低く、1・2時間程度の層ほど高い傾向にありました。

一方、本市では、1日に平均3時間以上利用する小学生が約17%、中学生が約29%。スコアは、全国と同様に、長時間にわたってスマホを利用するほど低くなる傾向にありました。

この他にも、長時間のスマホ利用は、睡眠不足やネット依存などの問題を引き起こします。

依存症などの治療を専門とする国立病院機構 久里浜医療センターによると、ネット依存の若年化が進んでおり、依存を解消しようとする意欲がなく、衝動をコントロールする力が育っていないこどもの治療は難しいとのこと。

また、スマホは、通話アプリによる「いじめ」や知らない人と関わることで起きる犯罪なども引き起こします。

これらを対策するため、オーストラリアでは、法律で16歳未満のSNS利用を禁止。愛知県豊明市は、条例でスマホ利用1日2時間を推奨しています。

一方、市内の小中学校では、生徒への指導や保護者向けの講習会、教職員向けの研修を実施し、地域によっては、メディアコントロールに関する標語をカレンダーに載せて啓発などに取り組んでいます。しかしながら、成果が上がっているとは言えない状況です。

学校では、スマホと同じ機能を持つタブレット端末を、ドリルやデータ編集、プレゼンテーションなどに活用しており、いまや、学習においても、日常生活においても、スマホは欠かせないものとなりました。

良い面と悪い面をもったスマホとの付き合い方を考えていくため、皆様からの意見を頂戴したいと思います。

#### ○市長

事務局からスマホの利用状況や問題点などを説明いただきました。

スマホは、大人にとっても、身体の一部のようなものとなりました。

私は、通話アプリによる連絡やネット検索に使用しています。

皆様の周りでは、何に使われることが多いでしょうか。

#### ○沼田委員

買い物での決済手段、友達との連絡、情報収集、何をするにしてもスマホを肌身離さず持っている状況です。ひとり1台持つようになり、家計の負担も大きくなっていると思います。

#### ○瀧澤（学）委員

仕事では、検索で使うことが多いです。

例えば、今日のような会に向けて勉強が必要な時には生成AIが役に立ちます。質問をすれば答えてくれて便利ですが、正しい回答なのか、鵜呑みにしないことが重要です。

また、家庭では、用事があって孫を見れない時に、スマホを預けて動画などを見せていたことがあります

#### ○市長

お母さんが料理している時に、こどもにスマホを預けるという記事を見たことがあります。

動画を見る、情報を受け取るという意味では、我々が小さい時にあったラジオやその後に普及したテレビも同じであると思いますが、これらとスマホの違いは何でしょうか。

#### ○高橋委員

テレビは一家に1台で、情報の選択権は親にあったと思います。親は、不適切だと思ったら、チャンネルを切り替えることができます。

一方で、スマホはひとり1台です。何を見るかの選択権は持ち主にあります。こどもたちは、好きなものを見て、興味がないものは見ないでしょう。

#### ○市長

こどもたちは、こういったものに興味を持って見ているのでしょうか。

#### ○事務局

生徒の様子を見ていると、若者がダンスしている動画を見て、友達と真似をして楽しんでいるようです。

### ○沼田委員

テレビではできないことを「やってみた」という内容を配信している、いわゆるユーチューバーの動画を見て、楽しんでいる子どももいると聞きます。

これが原因で、勉強時間が減ってしまうことは問題です。加えて、アプリやネット上の広告などに騙されてしまう、悪い人と繋がってしまうことも心配です。

ネットにでる広告が詐欺かどうか、顔の見えない相手が悪い人かどうかは、子どもには判断しづらいと思います。

### ○市長

おっしゃるとおりで、それらを取り締まるルールは必要ですね。

スマホの問題点をお話頂きましたが、一方でプラスの面もあるかと思いますが、いかがでしょうか。

### ○事務局

動画サイトで、各教科の学習をしている生徒がおります。

### ○高橋委員

ピアノを演奏する子どもは、動画を見ながら、曲が何を表現したいのか、他人の解釈を聞いて、自分の考えを深めています。

### ○市長

明確に、学びたいという気持ちを持った子どもには、便利ですね。

しかしながら、人は楽しい方に流れやすいと思います。誰かの良い話よりも悪い話の方が盛り上がる。それは面白いから。悪貨は良貨を駆逐します。

だからこそ、法律や条例による規制が必要ですが、その前に、スマホによって失われるものを考える必要があります。

### ○高橋委員

コミュニケーション力が失われてしまうと思います。

ネット上では、話の合う相手と、文字を打つだけで簡単に交流ができます。話が合わなくなれば、すぐに距離を置くこともできるでしょう。

一方で、現実には、相手の顔色を見て、雰囲気を感じ、時には苦痛を伴いながら、少しずつ人間関係を構築するため、息苦しさをを感じる時もあるかもしれません。

そのためでしょうか。自分にとって都合が良い受け答えをしてくれるAIと結婚したいと考える人もいるようです。

### ○市長

AIは自分を褒めてくれるということでしょうか。他人とぶつかりたくない、嫌なことを聞きたくないということでしょうか。日常から逃げ、AIと閉じこもる。オープンなネット空間であるはずなのに、逆に、視野が狭まってきていると思います。これでは、現実でのコミュニケーションが成立しなくなってしまうかもしれません。

テレビが普及してきた頃にも、このような議論があったのでしょうか。

私は、当時の子どもたちは、社会への視野が広がったと思います。テレビによって閉じこもるということはありませんでした。

### ○沼田委員

テレビは、AIのように承認欲求を満たしてはくれません。一方、自分の趣味を発信できる SNS では、仲間を見つけやすく、自分たちの世界に浸ることができると思います。

### ○市長

ネットは、同じような考えの人が集まりやすいですね。言葉がいらぬ時もあり、「イイネ」で交流ができてしまう。しかし、これでは、相手のことや物事を深く考えることができません。

30代の若者で芥川賞を受賞した方もいます。スマホとどう付き合ってきたのか聞いてみたいです。スマホに浸って生活してきたのでしょうか。うまく活用できていたのでしょうか。私たちは、どのように子どもたちに教えていけば良いのでしょうか。

### ○教育長

ネットに投稿されている動画は、見どころだけが切り取られています。私は、こういった動画を好む子どもたちには、ハイライトの裏にある、地道な努力や仲間とのすれ違いなどの現実も見てほしいと思っています。

### ○市長

日常生活は淡々としています。毎日がドラマチックになることはありません。

映画でも、盛り上がるシーンは続きません。

しかしながら、広告収入を目的とし、再生回数を増やしたい動画サイトは、刺激的なものを取り上げてしまう。こうした中でも、子どもたちがスマホと賢く付き合い合うためには、どうすれば良いのでしょうか。

### ○事務局

生徒には、授業でタブレット端末の活用方法を教えながら、スマホやネットの危険な面も伝えています。保護者に対しても、専門家を招き、啓発しているところです。しかしながら、例えば、講演会の参加率が低いといった現状があります。

### ○市長

学校で教えること、専門家を招くことも必要ですが、子どもたちには、スマホの良いところも悪いところも、日常的に教えていく必要があります。

しかしながら、共働きで忙しい親、別居している祖父母には難しいでしょう。私は、親も祖父母も、子どもとの距離がだんだん遠くなってしまっていると感じています。

昔は、家で生まれ、家で死にました。今は、病院で生まれ、病院で死にます。

スーッと息を引き取るときの厳粛さと悲しさは、その場に立ちあわないとわかりません。現代人は忙しく、病院でつきっきりではられない。子どもたちが、例えば祖父母を看取ることは稀でしょう。

テレビなどで、ライオンが肉を食べるシーンを見ると、自然の摂理で「かわいそう」と思うでしょうが、リアルと同じような重さを感じることはありません。

特に、直接会話をしない SNS では、嫌な言葉が飛び交っています。リアルとバーチャルの差をわかっていないと育めない優しさがあるのかもしれません。

#### ○高橋委員

こどもたちは、自分の気持ちをうまく表現できず、簡単な言葉に置き換えてしまいます。大人の目が届かないネットではなく、現実で直接コミュニケーションをとり、時には悩みながら、成長してほしいです。

#### ○沼田委員

こどもたちが詐欺などのトラブルに巻き込まれないように、引き続き、スマホとの関わり方を啓発していきたいです。

また、中には、SNS で発信できる文字数に限りがあるため、いかに役立つ情報を伝えられるかを意識している人もいます。誰かの役に立てるような発信をしようという前向きな教えも大事です。

#### ○瀧澤委員

これからもっと人口が減少し、労働力は不足します。そのため、AI の使い方などを学ぶことも重要です。良い面と悪い面を何度も伝えていくしかありません。

#### ○市長

スマホとの付き合い方は、教育だけの問題ではありません。

私は、多くの情報にさらされることで、自分の考えなしに誰かの意見に引きずられていく、付和雷同する人が増えてしまうことを恐れています。考えることは面倒なこと。誰かの意見に同調した方が楽。人間はそういうもの。SNS の使い方によっては、民主主義は危機にさらされてしまいます。

こどもたちがスマホを使いこなせるように、これからも対策をしていきたいと思っています。

### 3. 閉会

#### ○事務局（司会）

令和7年度白河市総合教育会議を閉会します。